

アニメーション メディア領域

アニメーションが一つの芸術表現領域として一般にも認知されるようになったのは、比較的最近のことに過ぎません。その一方で、大学教育の拡充やハード・ソフト両面における制作環境の普及により、アニメーションを志す者や若手作家の層はかつてない広がりを見せています。このような状況に対応すべく、アニメーションメディア領域では、すでにアニメーション関連分野において作品制作もしくは研究の経験がある人に対して、それをさらに高いレベルで継続する場を提供します。次世代のアニメーションシーンを担おうとする情熱を持ち、それを実現させるための創造性や論理性を備えている人を歓迎します。

教員の紹介

Professor Introduction



三善和彦
教授

研究テーマ ● デジタル技術が多く取り入れられる時代になって、演出方法が変わった点、変わらない点があります。何が人の心に感動を生み出すのか、自在な映像表現が様々な制約に縛られずに表現可能になった時代だからこそ、守るべき押さえるべきポイントは何か、を考えます。

メッセージ ● 作品作りはコミュニケーション。過去の作品に学びつつ、新たな表現に挑む心を忘れずに、「何を」「如何に」表現していくかを、ともに追及していきましょう。

【専門分野】

アニメーション演出

アニメーション制作

【担当科目】

アニメーション特別研究



木船園子
教授

研究テーマ ● 絵(静止画像)をコマ単位の時間軸上で構成し動きを生み出すアニメーション表現について、アナログとデジタル技術双方の視点から研究します。写真メディア、映像メディア、デザインメディア、デジタルメディア、ゲームメディアといった他領域とアニメーションの関係性についても考察します。

メッセージ ● アニメーション表現の広がりや奥深さを知り、アニメーション表現の可能性を探り、作品制作や研究に結実させていきます。

【専門分野】

CG

アニメーション

【担当科目】

アニメーション表現特論II

アニメーション表現特論演習II

アニメーション特別研究



陶山 恵
准教授

研究テーマ ● アニメーション表現が物語を運ぶ時にどのような特性を発揮するかを中心に研究しています。国内外のアニメーション史、及び子どもの文化・文学を研究対象とします。

メッセージ ● アニメーション表現の持つ豊かな能力と可能性に対して、制作や研究によって、より深く向きあっていきたいと思えます。

【専門分野】

アニメーション史

アニメーション理論

児童文化・文学

【担当科目】

アニメーション研究特論

アニメーション研究特論演習I

アニメーション特別研究



権藤俊司
准教授

研究テーマ ● 欧米のアニメーション史、特に実験系の作家について、アニメーションの技術的側面を中心に研究しています。

メッセージ ● 実写とアニメーションの区分すら曖昧化しつつある現在において、あえて「アニメーションであること」の意義は何なのか。この問いに対して、制作者あるいは研究者として取り組んでもらいたい。

【専門分野】

アニメーション史

【担当科目】

アニメーション研究特論II

アニメーション研究特論演習II

本領域で育てる人材

diploma policy

映像・音楽・文学及び科学技術など、多様な分野が関わる総合的な芸術形式で日本が世界に誇る文化の一つであるアニメーションについて、個性的な表現や独創的な理論を確立し、国内外で活躍できる優秀な人材を養成します。

教育内容

curriculum policy

制作系の研究を選択する場合は、2年間の総括として修了作品を制作することはもちろんですが、1年次においても最低1本の作品を完成させることを課します。

また、制作テーマに即した副論文の執筆に向けて理論的なりサーチも同時に進めます。論文系の研究を選択する場合は、修士論文執筆に向けて大学院生にふさわしい広範な教養に基づき研究テーマの深化を目指します。

アニメーションメディア領域授業科目一覧 (H23年度開講科目予定)

アニメーション 表現特論II	木船園子	アニメーションの分野において、実験的手法と呼ばれる表現とは何でしょうか。実験アニメーション作家の作品を取り上げ、アニメーションの多様で多彩な表現について述べていきます。絵(静止画像)をコマ単位の時間軸上で構成し、動きを生み出す表現の多様性を各作品から学び取ってください。多彩な手法の中にみられる写真メディア、映像メディア、デザインメディア、デジタルメディア、ゲームメディアといった他領域とアニメーションの関係性についても考察していきます。また、あらゆるアートの展覧会に足を運び、アニメーション分野との関係、自己表現との関係について考察します。
アニメーション 研究特論I	陶山 恵	アニメーションという映像表現の可能性がどのように研究され変化発展してきたのかを、歴史的な視点から考察することを大きな目的として設定します。具体的にはディズニーとフライシャー兄弟という制作者を軸に、その相違を論じながら、彼らのもとから活動を広げていった同時代の作家たちも取り上げつつ、アニメーション表現がどのように捉えられ、用いられてきたかを検証していきます。日本におけるアニメーション作品との相違、及びその特性・個性を考えるとどこまで発展させていきたいと思えます。
アニメーション 研究特論II	権藤俊司	この講義では主として海外アニメーションの中から歴史的・美学的に重要な作家を取り上げ、その主題や表現について検証します。その際、他ジャンルとの関連、歴史的文脈、表現メディアの特性等、多角的なアプローチを試みることで、各作家の特質やアニメーション表現の多様性を明らかにしていくことを目指します。
アニメーション 表現特論演習I	古川タク	アニメーション作家への自己研鑽のために、アニメーションメディア領域の特色ある特別研究の場を提供します。ショートアニメーション作品の制作、発表、映画祭等への積極的な参加を行います。
アニメーション 表現特論演習II	木船園子	デジタル化によるアニメーション制作の方法と非デジタルによる「動く絵」の生成について考察しながら、目的や具体性を持ったアニメーション作品を企画し、プレゼンテーションのうえ制作、完成させ、その成果を発表します。
アニメーション 研究特論演習I	陶山 恵	「再話」という行為について学び、自らが「再話者」となることによって、そのプロセスを体験しながら考察を進めていくことを本演習の目的とします。具体的には、「原作」を想定し、その「アニメーション作品化」の企画立案を行い、作業を進めていきます。受講者相互の意見交換を行い、アニメーション表現の多様性について各自の可能性を広げてもらいたいと思えます。本演習は、体験するプロセス自体を考察の中心と考えますが、成果物として作品を完成させることを望みます。
アニメーション 研究特論演習II	権藤俊司	「自分の方法で表現し思考することを望む者は、個人的技法を探究しなければならない」(アレクサンドル・アレクセイエフ)アニメーションの表現技法は多岐にわたります。従って、作家としての創作活動に際しては、表現内容に適した表現手段を用いることが肝要です。この演習ではいくつかのテーマに基づいて各自が映像制作を行います。完結した作品制作が目的ではなく、結果の検証を通じて各自の表現方法を発見することを目指します。
アニメーション 特別研究	三善・木船・陶山	アニメーション分野における表現者、あるいは研究者として自己のテーマを定め、作品制作・作品研究を行います。

※所属する研究領域において開講されている科目です。